

# 第7回 日本呼吸ケア・ リハビリテーション学会 甲信越支部学術集会



プログラム・抄録集

テーマ **みんなで支える呼吸ケア診療**



会期

2022年(令和4年) **6月18日土** (ハイブリッド開催)  
※6月19日日 甲信越地区呼吸ケア実技セミナー(会場集合形式)

会場

**新潟医療人育成センター**(新潟大学旭町キャンパス内)  
〒951-8510 新潟市中央区旭町通1-757

会長

**菊地 利明** 新潟大学大学院 医歯学総合研究科  
呼吸器・感染症内科学分野 教授

共催

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

後援

新潟市医師会

主催

日本呼吸ケア・リハビリテーション学会甲信越支部



# 第7回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 甲信越支部学術集会

プログラム・抄録集

テーマ

**みんなで支える呼吸ケア診療**

会期

2022年(令和4年)6月18日(土) (ハイブリッド開催)  
※6月19日(日) 甲信越地区呼吸ケア実技セミナー(会場集合形式)

会場

**新潟医療人育成センター**  
(新潟大学旭町キャンパス内)

〒951-8510 新潟市中央区旭町通1-757

会長

**菊地 利明** 新潟大学大学院 医歯学総合研究科  
呼吸器・感染症内科学分野 教授

共催

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

後援

新潟市医師会

主催

日本呼吸ケア・リハビリテーション学会甲信越支部

事務局

新潟大学大学院 医歯学総合研究科 呼吸器・感染症内科学分野

〒951-8510 新潟県新潟市中央区旭町通1番町757番地

TEL: 025-368-9325 FAX: 025-368-9326

運営事務局

株式会社シンセンメディカルコミュニケーションズ

〒950-0983 新潟県新潟市中央区神道寺1丁目6番14号

TEL: 025-278-7232 FAX: 025-278-7285

E-mail: kokyucarereha-kse@shinsen-mc.co.jp

## 新型コロナウイルス感染症拡大防止への取り組み

第7回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 甲信越支部学術集会においては、新型コロナウイルス感染症パンデミックが収束するまでは、万が一の際の感染経路追跡調査が可能となるよう、学会に参加されるすべての方を対象に①企画参加当日の検温と②「参加同意書」のご提出を参加の必須条件とさせていただきます。

また、主催者側も会場内での感染予防対策を徹底し安心してご参加いただけるよう配慮いたしますが、同時に3密を避ける観点から、当日の混雑状況によっては予告なく入場制限や受付時間の変更などを行う可能性がございます。

ご不便、ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以下①②③いずれか1つでもあてはまる場合はご参加いただけません。

- ① 来場前の検温で37.5度以上の発熱がある
- ② 「参加同意書」の提出がない
- ③ 新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者であることが判明した場合
- ④ 過去2週間以内に入国制限等のある国・地域からの渡航者・在住者との濃厚接触がある場合

会場内では必ずお守りください。

- マスク着用、手洗い・手指消毒、咳エチケットの励行
- 3密を避ける（特に参加・単位登録受付周辺、会場内、パブリックスペース）

- 金銭授受時の接触を減らすためお釣り銭が出ないようにご準備をお願いいたします。
- 感染防止の観点から、参加やPC登録受付などでは時間がかかることが予想されます。  
**時間に余裕をもってご来場ください。**
- その他感染対策の詳細につきましては学術大会のホームページをご参照ください。



# 参加同意書（会場参加者当日提出用）

※来場日に提出ください

## 第7回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 甲信越支部学術集会

記載事項をすべてお読みいただき、枠内すべての事項にチェックとご記入・ご署名が確認できた場合のみ参加可能といたします。ご記入後は参加受付にご提出ください。

同意できる事項にチェックをつけてください（8か所）。

- 本日、来場前に検温を行いました（体温は下枠内に記載してください）。
- 現在の健康状態に異常はありません。また参加中も体調変化には十分に留意いたします。
- 過去2週間以内に、新型コロナウイルス感染者との濃厚接触はありません。
- 過去2週間以内に、入国制限等のある国・地域からの渡航者・在住者との濃厚接触はありません。
- 会場内ではマスクを着用し、こまめな手洗いと咳エチケットを徹底いたします。
- 濃厚接触者となった場合は、接触してから2週間を目安に自宅待機の要請が行われる可能性があることを承諾いたします。
- 万が一参加者内においてクラスターが発生した場合、行政機関や保健所等に対し本同意書記載の連絡先を開示することについて承諾するとともに、追跡調査に協力いたします。
- 混雑時には会場内での入室制限や参加・単位登録の時間に変更が生じる可能性があることを承諾いたします。その際は主催会長および会場責任者・会場係員の指示や誘導に従います。

会場内では次の感染対策を実施いたします

- ・ 入口ドアの開放および定期的な室内換気を行います。
- ・ 受付各所および会場内座席には十分な距離を確保いたします。
- ・ 会場内備品や設備各所は定期的な消毒を行います。
- ・ 受付・会場内係員はすべて検温と健康観察を行い、体調に異常がないことを確認しております。

私は本『企画参加同意書』記載のチェックリストを確認し、項目について順守するとともに、自らの意思にもとづき参加いたします。

来 場 日	6月18日（土）
本日の体温	37.5度以上の場合は参加をご遠慮ください 度 分
参加者氏名	
所 属 先	
連絡先電話番号	

本同意書は第7回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 甲信越支部学術集会が2か月間保管後、破棄いたします。法令等に基づく開示請求を受けた場合を除き、第三者への開示提供や他目的での利用は行いません。

2022年 月 日

施設長 殿

第7回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会  
甲信越支部学術集会

会長 菊地 利明

新潟大学大学院 医歯学総合研究科  
呼吸器・感染症内科学分野 教授



## 学会出張許可のお願いについて

謹 啓

時下、貴職におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび下記により第7回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 甲信越支部学術集会を開催する運びとなりました。

つきましては、貴職員で \_\_\_\_\_ 氏の学術集会出现につきまして、格段のご高配をいただきますよう謹んでお願い申し上げます。

謹 白

### 記

- 学術集会名称 第7回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会  
甲信越支部学術集会
- 日 程 2022年6月18日（土）
- 開 催 場 所 新潟医療人育成センター（新潟大学旭町キャンパス内）  
〒951-8510 新潟県新潟市中央区旭町通 1-757
- 開 催 形 式 現地会場＋ライブ配信のハイブリッド形式

以上

## ご 挨拶

### 第7回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 甲信越支部学術集会開催にあたって

第7回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会  
甲信越支部学術集会

会 長 菊地 利明 新潟大学大学院 医歯学総合研究科  
呼吸器・感染症内科学分野 教授



この度、「第7回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会甲信越支部学術集会」を2022年6月18日(土)に新潟大学旭町キャンパス 医療人育成センター(新潟県新潟市)で開催させていただくこととなりました。

ワクチン接種が進む中、依然として新型コロナウイルスは猛威を振っており、現時点では収束はまだみられません。早期の収束を祈念しつつ、オンラインと会場参加のハイブリッド形式で開催することとなりました。

今回、「みんなで支える呼吸ケア診療」を本大会のテーマとしました。多職種チームで入院から在宅医療までシームレスに取り組む呼吸ケア診療が求められています。現在は感染症に振り回されながらも、with コロナ時代における新たな呼吸ケア診療へとつながることを期待し、企画、準備を行いました。一般演題26題、教育セミナー4題、次年度大会プレゼン、モーニングセミナー、ランチョンセミナー、シンポジウムと充実した本大会を開催できることを本当にうれしく思っております。会員の皆様方には、新しい開催形式で日頃の研究成果の発表や症例報告、セミナー・シンポジウム等を通じて、チーム医療の活性化と新たな知識習得に役立つ学術集会となりますことを、祈念いたしております。

# 会場のご案内

〒 951-8510 新潟市中央区旭町通一番町 757

〈周辺マップ〉



- ・会場までタクシーをご利用の方は「**新潟大学医学部 赤門前**」とお伝えください。
- ・駐車場をご利用の方は、**学術集会臨時の駐車場※**をご利用ください。  
駐車料金は無料です。  
**第4・第5駐車場は有料となります。**  
〈ゲート開放時間〉  
8:00～17:00
- ・出庫は17:00以降も可。

〈キャンパスマップ〉



\*バスでお越しの場合／路線バス（新潟駅前万代口バスターミナルより）約10～15分

\*新潟駅は現在改装工事中でございます。JR改札西口より万代口ターミナルへお越しください。

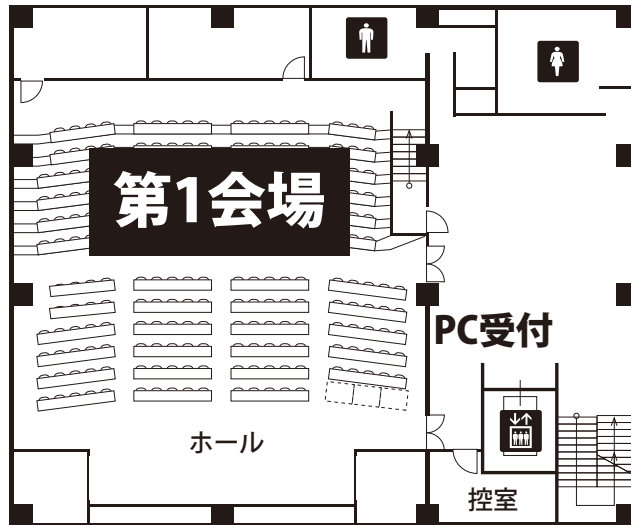
0 番線	W3W4 寺尾線・大堀線直通	「東中通」Aバス停で下車	バス停より徒歩7分
4 番線	C8 新大病院線	「新潟大学病院」Cバス停で下車	（外来棟前ロータリー着）※1時間に2本～3本
5 番線	W2 西小針線	「東中通」Aバス停で下車	バス停より徒歩7分
6 番線	W1 有明線 C3 信濃町線	「東中通」Aバス停で下車	バス停より徒歩7分
7 番線	C2 浜浦町線	「旭町通二番町」Bバス停で下車	バス停より徒歩3分
8 番線	S2 鳥屋野線	「東中通」Aバス停で下車	バス停より徒歩7分 ※1時間に1本～2本

■運賃 210 円（運賃後払い） ■支払方法：現金または IC カード

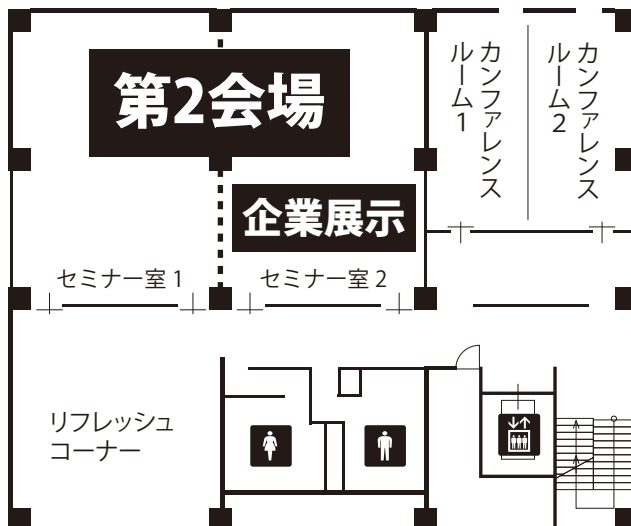
\*新潟駅からタクシーでお越しの場合 ■所要時間：約15分 ■料金：約1,500円

# 会場フロア図

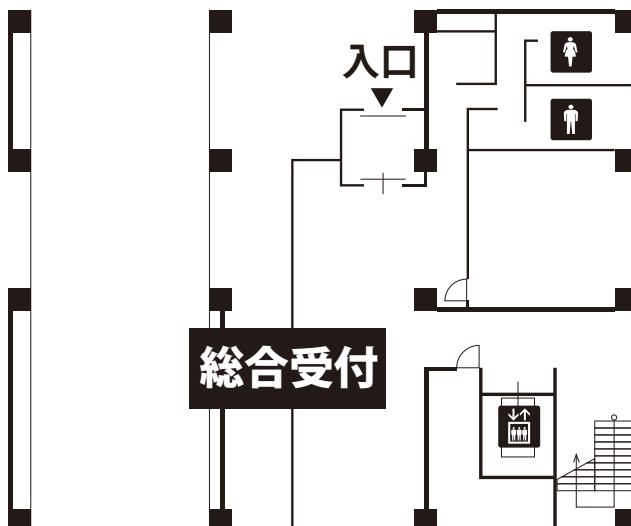
4階



2階



1階





# 会場参加の皆様へ

本学術集会は、現地開催 + Zoom ウェビナーでのライブ配信を併用した、ハイブリッド形式にて開催いたします。

## 【新型コロナウイルス感染症対策について】

- 2022年6月4日以降はご自身の健康観察を実施し、発熱、咳、咽頭痛、疲労倦怠感などがあつた場合は、オンライン参加とし、ご来場をお控えください。
- ご来場前に必ず検温を実施し、参加同意書(会場参加者当日提出用)を記載の上、来場時に提出してください。
- 来場時に必ずマスク着用をお願いします。
- 運営スタッフもマスク、手袋(必要時)を着用してのご案内になりますので予めご了承ください。
- 各会場入口では消毒液を設置しておりますのでご入場の際はアルコール消毒にご協力ください。
- PC 受付、座長席、演台にも消毒液を設置しております。PC 受付での操作の際や、ご登壇時のマイク・マウス・レーザーポインターのご利用前後にはスタッフが消毒いたします。
- 共催セミナーの資料、お弁当などは机上よりご自身でお取りください。空き容器は出口付近にある所定場所へ各自お持ちください。

## ■当日の参加受付について

受付日時：2022年6月18日(土) 8:00～15:00

受付場所：1F エントランスホール

## ■プログラム・抄録集、参加証について

事前参加登録いただいた方へは、事前に郵送しておりますので、当日は忘れずにご持参ください。

参加証は学会終了後の単位取得の際にも必要となりますので大切に保管ください。

## ■会場案内

### 新潟医療人育成センター

総合案内・当日受付：1F エントランスホール

第1会場：4F ホール

第2会場：2F セミナー室1・2

PC受付：8:00～16:00 4F ホワイエ

企業展示：9:00～16:00 2F セミナー室2

※クロークのご用意はございません。

# オンライン参加の皆様へ

【注意事項】 配信内容を無断で撮影・録画・ダウンロードすることを固く禁じます。

## ■ ライブ配信の視聴・参加の手順

### 1) 事前参加登録

6月18日(土)ライブ配信の視聴には事前参加登録が必要です。

6月13日(月)正午までホームページより受付けております。

### 2) Zoom の準備

① Zoom は Windows、Mac に対応しています。サポートされている利用可能な機器 (OS のバージョン等) をご確認ください。詳細は Web 会議システム Zoom 公式ホームページの「Zoom ヘルプセンター>始めに>デスクトップ」(PC の場合) をご参照ください。

② Web 会議参加には処理能力の高い機器 (CPU : Core i5 2.6GHz、メモリー : 8G 以上) の使用を推奨いたします。また、電源アダプターのご用意をお願いいたします。電力の消費が大きいので、途中でバッテリーがなくならないようご注意ください。

③ 付属設備の準備と設定 (スピーカー)

事前に Zoom のオーディオ設定でスピーカーをテストし、音量を確認してください。

Zoom の他に PC 本体の音量設定も確認してください。

※視聴中は、マイクとカメラを必ず OFF にしてください。

### 3) ライブ配信

配信・視聴方法：ビデオ会議アプリ「Zoom」による配信

※当日までに Zoom へのサインアップをお済ませいただき、ご自身の PC、スマートフォン等で視聴できる環境にしてください。無料版でも結構です。サインアップの際には参加登録の際と同じメールアドレスおよび氏名をお願いいたします。

- 前日までに登録されたメールアドレスへ招待メール (ミーティング ID とパスワード) をお送りいたします。
- Zoom にログインの上、招待メールに記載されたミーティング ID・パスワードを使用しミーティングに参加してご視聴ください。
- 全てのセッションを同一のミーティング ID・パスワードで実施いたします。
- 参加確認は Zoom ログイン記録で行います。なお、当日オンラインでセッションに参加する際、名前は「漢字の氏名 (例：新潟太郎)」としてください。
- 質問やコメントがある場合は、演題終了後に Zoom 内機能「Q&A」をクリックしていただき、テキスト内に入力してください。送信された質問は、演者の発表終了後座長が読み上げ、演者に回答いただきます。時間の都合上、すべての質問にお答えできない場合がございますので、予めご了承ください。

## 取得可能な単位について

※6月18日(土)学術集会参加で取得可能な単位は、現地、オンライン、いずれの参加方法でも取得できます。

6月19日(日)実技セミナーは、現地参加のみです。

### 1) 呼吸ケア指導士認定単位：出席者10単位、発表者10単位

※6月19日(日)の「甲信越地区呼吸ケア実技セミナー2022」と学術集会の両方へ出席の場合、取得可能な単位は20単位です(学術集会10点+実技セミナー10点)。

### 2) 3学会合同呼吸療法認定士資格更新単位

a. 出席20点

b. 座長20点

c. 呼吸療法に直接関連した演題の第1演者20点、共同演者10点

d. 講師として講義・講演した場合30点

※6月19日(日)の「甲信越地区呼吸ケア実技セミナー2022」と学術集会の両方へ出席の場合も、取得可能な単位は20単位です(両日参加でも同単位)。

### 3) 日本呼吸器学会呼吸器専門医資格更新単位：出席者2単位

## 代議員の皆様へ

代議員会は Zoom 併用にて以下の通り開催いたします。

日 時：2022年6月18日(土) 12:10～12:40

場 所：第2会場

## 座長・演者の皆様へ

会場参加としてのご案内です。

オンライン参加となる場合の発表方法等については個別にご案内いたします。

### ■発表者の方へ

- 1) 一般演題は、発表7分、質疑2分の計9分です。  
一般演題以外の発表時間は各セッションにより異なります。  
運営事務局または共催企業より個別にご案内しているとおります。  
時間厳守での発表・討論をお願いいたします。
- 2) 発表 PC は Windows 版 PowerPoint (2013 以降のバージョン) のみとなります。
- 3) データの持ち込みは CD-ROM、USB フラッシュメモリでお願いいたします。
- 4) ご発表の1時間前(朝一番のセッションは20分前)までに PC 受付(4F ホワイエ)にてデータの登録と試写をお済ませください。
- 5) 発表セッション開始10分前までに会場内前方左の次演者席にご着席ください。

### 【利益相反(COI)の開示について】

発表に際し、COIの開示が必要です。〔様式1-A〕の例を参考に、発表スライドに組み入れてください。

スライド例は、学会ホームページよりダウンロードいただけます。

〈一般社団法人日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 COI ページ〉

[http://www.jsrcr.jp/modules/about/index.php?content\\_id=14](http://www.jsrcr.jp/modules/about/index.php?content_id=14)

### \*様式1-A 学術集會口演発表時のスライド例

下記のスライド例にてCOI開示

様式1-A 学術集會口演発表時、申告すべきCOI状態がない時

**日本呼吸ケア・リハビリテーション学会**  
**COI 開示**

筆頭発表者名: ○○ ○○

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある  
企業などはありません。

申告すべき COI 状態がないとき

様式1-A 学術集會口演発表時、申告すべきCOI状態がある時

**日本呼吸ケア・リハビリテーション学会**  
**COI 開示**

筆頭発表者名: ○○ ○○

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などとして、

①顧問:	なし
②株保有・利益:	なし
③特許使用料:	なし
④講演料:	なし
⑤原稿料:	なし
⑥委託研究・共同研究費:	○○製薬
⑦奨学金付金:	○○製薬
⑧寄付講座所属:	あり(○○製薬)
⑨贈答品などの報酬:	なし

申告すべき COI 状態があるとき

### ■座長の方へ

- 1) ご担当セッションの開始10分前までに会場内前方右の次座長席にご着席ください。
- 2) 演者の発表時間および討論時間は厳守でお願いいたします。
- 3) 一般演題では、各ご担当セッションより「優秀演題」を1題選出してください。



# 日 程 表

	【現地会場】 【ライブ配信】	第1会場 (4F ホール) ウェビナー 1	第2会場 (2Fセミナー室1・2) ウェビナー 2	第2会場 (2Fセミナー室2)
8:30				
9:00	9:00~9:05	<b>開 会 式</b>		
	9:10~9:55	<b>モーニングセミナー</b> がん治療最前線 ~最先端免疫チェックポイント阻害薬治療~ 座長：渡部 聡 講師：三浦 理 共催：プリストル・マイヤーズスクイブ株式会社/小野薬品工業株式会社	9:10~9:55 <b>一般演題 1</b> 呼吸リハビリテーション① OP1-1~OP1-5 座長：高橋 祐介	9:00 } 16:00
10:00	10:00~10:15	<b>次年度大会プレゼンテーション</b> 次年度大会長：大平 峰子		<b>企 業 展 示</b>
	10:25~11:25	<b>教育セミナー ①</b> COPD 診療におけるトリプルセラピー 座長：大平 徹郎 講師：安尾 将法 共催：アストラゼネカ株式会社	10:20~11:15 <b>一般演題 2</b> チーム医療・多職種連携 OP2-1~OP2-6 座長：安中 裕紀	
11:00	11:30~12:00	<b>教育セミナー ②</b> 呼吸器リハビリテーションをより有効にする漢方薬と栄養管理の工夫 座長：菊地 利明 講師：水野 英彰 共催：株式会社ツムラ	11:20~12:05 <b>一般演題 3</b> 呼吸管理・在宅医療 OP3-1~OP3-5 座長：武田 真龍	
12:00	12:10~13:10	<b>ランチョンセミナー</b> 間質性肺炎における問診の重要性と診断のポイント 座長：高田 俊範 講師：杉野 圭史 共催：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社	12:10~12:40 <b>代議員会</b>	
	13:20~14:20	<b>教育セミナー ③</b> 急性期から慢性期まで対象が広がるハイフローセラピー(HFNC) 座長：大平 峰子 講師：富井 啓介 共催：帝人ヘルスケア株式会社	13:15~14:10 <b>一般演題 4</b> 呼吸リハビリテーション② OP4-1~OP4-6 座長：永井 明日香	
14:00	14:25~14:55	<b>教育セミナー ④</b> 在宅酸素療法を必要とする患者への支援 座長：坂井 邦彦 講師：小林 千穂 共催：株式会社フィリップス・ジャパン	14:15~14:55 <b>一般演題 5</b> 教育・指導 OP5-1~OP5-4 座長：結城 ちかこ	
15:00	15:00~16:30	<b>シンポジウム</b> みんなで支える呼吸ケア診療について ~多職種チームで支える入院から在宅医療~ 座長：穂荻 諭 瀬崎 学 シンポジスト：松澤 知 小泉 健 矢尾板 聖美 松本 武志	15:00~15:30 <b>優秀演題選出</b>	
16:00				
	16:40~16:50	<b>閉会式・優秀演題賞発表</b>		
17:00				

# プログラム

第1会場(4F ホール) ライブ配信：ウェビナー1

9:00～9:05 **開会式**

会長：菊地 利明（新潟大学大学院 医歯学総合研究科 呼吸器・感染症内科学分野 教授）

9:10～9:55 **モーニングセミナー**

共催：ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社／小野薬品工業株式会社

座長：渡部 聡（新潟大学医歯学総合病院 呼吸器・感染症内科 医学部 准教授 /  
新潟大学医歯学総合病院 腫瘍センター 副センター長）

## がん治療最前線 ～最先端免疫チェックポイント阻害薬治療～

講師：三浦 理（新潟県立がんセンター新潟病院 内科部長）

10:00～10:15 **次年度大会プレゼンテーション**

## 第8回学術集会「在宅で安心・安全・安楽（幸せ）に」

次年度大会長：

大平 峰子（牟礼診療所 所長）

10:25～11:25 **教育セミナー①**

共催：アストラゼネカ株式会社

座長：大平 徹郎（国立病院機構 西新潟中央病院 病院長）

## COPD 診療におけるトリプルセラピー

講師：安尾 将法（信州大学医学部保健学科 検査技術科学専攻 生体情報検査学領域 教授）

11:30～12:00 **教育セミナー②**

共催：株式会社ツムラ

座長：菊地 利明（新潟大学大学院 医歯学総合研究科 呼吸器・感染症内科学分野 教授）

## 呼吸器リハビリテーションをより有効にする 漢方薬と栄養管理の工夫

講師：水野 英彰（悦伝会 目白第二病院 副院長）

12:10～13:10 **ランチョンセミナー**

共催：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

座長：高田 俊範（新潟大学医歯学総合病院 魚沼地域医療教育センター 特任教授）

## 間質性肺炎における問診の重要性と診断のポイント

講師：杉野 圭史（一般財団法人慈山会 医学研究所付属 坪井病院 副院長・呼吸器科部長）

13:20～14:20 **教育セミナー③**

共催：帝人ヘルスケア株式会社

座長：大平 峰子（牟礼診療所 所長）

## 急性期から慢性期まで対象が広がるハイフローセラピー（HFNC）

講師：富井 啓介（神戸市立医療センター 中央市民病院 副院長・呼吸器内科部長）

14:25～14:55 **教育セミナー④**

共催：株式会社フィリップス・ジャパン

座長：坂井 邦彦（社会医療法人新潟臨港保健会 新潟臨港病院 呼吸器内科 内科部長）

## 在宅酸素療法を必要とする患者への支援

講師：小林 千穂（学校法人 新潟総合学園 新潟医療福祉大学 看護学部 看護学科 高齢者看護学 准教授/  
慢性呼吸器疾患看護認定看護師／慢性疾患看護専門看護師）

15:00～16:30 **シンポジウム**

座長：穂苅 諭（新潟大学大学院 医歯学総合研究科 呼吸器・感染症内科学分野 特任助教）

瀬崎 学（新潟県立リウマチセンター リハビリテーション科 副技師長・内部障害系専門理学療法士）

[ みんなで支える呼吸ケア診療について  
～多職種チームで支える入院から在宅医療～ ]

## 新潟県新型コロナウイルス患者療養の入院外療養について

演者：松澤 知（新潟県医療調整本部）

## 新型コロナウイルス感染症患者の急性期治療・ケア

演者：小泉 健（新潟県立燕労災病院 総合診療科長・教育研修センター長）

## COPD 患者の新型コロナウイルス感染症罹患後 回復期～在宅療養へ向けた看護師の役割

演者：矢尾板 聖美（国立病院機構 西新潟中央病院 副看護師長／慢性呼吸器疾患看護認定看護師）

## 慢性閉塞性肺疾患（COPD）に対する呼吸リハビリテーションと 重症 COVID-19 肺炎

演者：松本 武志（JA 長野厚生連 佐久総合病院 理学療法科 主任）

16:40～16:50 **閉会式・優秀演題賞発表**

---



# 甲信越地区呼吸ケア実技セミナー2022

6月19日(日)

## 1. フィジカルアセスメント 9:00～9:50

---

講師：高橋 祐介（新潟勤労者医療協会 下越病院 理学療法士）

実技：① 聴診（正常呼吸音） ② 触診（胸郭）

## 2. 人工呼吸器 グラフィック 10:00～10:50

---

講師：遠藤 義幸（新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院 臨床工学技士）

星 力央（新潟県立がんセンター新潟病院 臨床工学技士）

実技：グラフィックモニタから患者背景や原因を読み取る

## 3. 嚥下機能評価 11:00～11:50

---

講師：伊原 武志（日本赤十字社 長岡赤十字病院 言語聴覚士）

小林 航（新潟県立坂町病院 言語聴覚士）

実技：① RSST ② MWST(3ml)スコアリング

③ フードテスト(FT)直接嚥下のコツ

# 一般演題プログラム

第2会場(2F セミナー室1・2) ライブ配信：ウェビナー2

9:10～9:55 一般演題1 [呼吸リハビリテーション①]

座長：高橋 祐介(新潟勤労者医療協会 下越病院 リハビリテーション課)

## OP1-1 外来間質性肺疾患患者に対する呼吸リハビリとしての6分間歩行試験の有用性について

○長谷川 雄司<sup>1)</sup>、佐藤 源<sup>1)</sup>、倉重 理絵<sup>2)</sup>、木村 夕香<sup>2)</sup>、森山 寛史<sup>2)</sup>、大平 徹郎<sup>2)</sup>

1) 国立病院機構 西新潟中央病院 リハビリテーション科、

2) 国立病院機構 西新潟中央病院 呼吸器センター内科

## OP1-2 不安と呼吸困難が強い終末期肺がん患者に対する呼吸リハビリテーションの経験

○葦澤 紀文<sup>1)</sup>、岩崎 円<sup>1)</sup>、大坪 亜矢<sup>2)</sup>、高橋 敦宣<sup>2)</sup>、穂苺 諭<sup>2)</sup>、永井 明日香<sup>2)</sup>、大嶋 康義<sup>2)</sup>、上路 拓美<sup>1)</sup>、木村 慎二<sup>3)</sup>

1) 新潟大学医歯学総合病院 診療支援部 リハビリテーション部門、

2) 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 呼吸器・感染症内科学分野、

3) 新潟大学医歯学総合病院 リハビリテーション科

## OP1-3 Platypnea-orthodeoxia syndrome を有する食道胃接合部癌患者に対する周術期呼吸リハビリテーションの経験

○岩崎 円<sup>1)</sup>、葦澤 紀文<sup>1)</sup>、高橋 敦宣<sup>2)</sup>、穂苺 諭<sup>2)</sup>、永井 明日香<sup>2)</sup>、大嶋 康義<sup>2)</sup>、上路 拓美<sup>1)</sup>、木村 慎二<sup>3)</sup>

1) 新潟大学医歯学総合病院 診療支援部 リハビリテーション部門、

2) 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 呼吸器・感染症内科学分野、

3) 新潟大学医歯学総合病院 リハビリテーション科

## OP1-4 IV期 COPD 患者に対する統合ケア(integrated-care)の重要性

○曾田 健介<sup>1)</sup>、長谷川 俊輔<sup>1)</sup>、中山 奏<sup>1)</sup>、梅津 大助<sup>2)</sup>、榎本 克己<sup>3)</sup>、藤森 勝也<sup>3)</sup>

1) あがの市民病院 リハビリテーション科、2) あがの市民病院 訪問看護ステーション、

3) あがの市民病院 内科

## OP1-5 Mechanical insufflation-exsufflation (MI-E) の導入が有効であった急性期頸髄損傷の一症例

○今井 遼太<sup>1)</sup>、大口 陽子<sup>1)</sup>、阿部 由紀子<sup>2)</sup>、遠藤 義幸<sup>3)</sup>、山口 征吾<sup>4)</sup>

1) 新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院 リハビリテーション技術科、

2) 新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院 看護部、

3) 新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院 臨床工学科、

4) 新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院 救命救急・外傷センター

**OP2-1** 包括的呼吸リハビリテーションにより、  
再び在宅独居生活が可能となった超高齢 COPD 症例

○中村 可愛<sup>1)</sup>、渋谷 悠旦<sup>2)</sup>、長岡 小夏<sup>1)</sup>、田邊 ちづる<sup>3)</sup>、奥田 恵美<sup>4)</sup>、  
川崎 智恵<sup>5)</sup>、星野 智美<sup>6)</sup>、藤田 七恵<sup>7)</sup>、筒井 奈々子<sup>7)</sup>、坂井 邦彦<sup>2)7)</sup>

1)新潟臨港病院 リハビリテーション科、2)新潟臨港病院 在宅医療部、3)新潟臨港病院 看護部、  
4)新潟臨港病院 薬剤部、5)新潟臨港病院 地域連携センター、6)新潟臨港病院 栄養科、  
7)新潟臨港病院 内科

**OP2-2** 当院退院支援に対する取り組み  
—重症大動脈弁狭窄症の一例—

○木賀 洋<sup>1)</sup>、平野 ひろみ<sup>2)</sup>、太田 求磨<sup>3)</sup>

1)新潟県立柿崎病院 リハビリテーション科、2)新潟県立柿崎病院 看護部、3)新潟県立柿崎病院 総合診療科

**OP2-3** 繰り返す気道閉塞に対し、  
カフアシストを導入した筋萎縮性側索硬化症の一例

○坂野 周平<sup>1)</sup>、高橋 敦宣<sup>2)</sup>、穂苅 諭<sup>2)</sup>、永井 明日香<sup>2)</sup>、大嶋 康義<sup>2)</sup>、  
高野 真優子<sup>1)</sup>、上路 拓美<sup>1)</sup>、木村 慎二<sup>3)</sup>

1)新潟大学医歯学総合病院 診療支援部 リハビリテーション部門、  
2)新潟大学大学院 医歯学総合研究科 呼吸器・感染症内科学分野、  
3)新潟大学医歯学総合病院 リハビリテーション科

**OP2-4** 在宅酸素療法導入後の患者教育における病棟と看護外来の連携

○柚木 寿江<sup>1)</sup>、佐伯 好次<sup>1)</sup>、西山 陽子<sup>1)</sup>、清水 智香子<sup>1)</sup>、高橋 美帆<sup>2)</sup>、市川 絃将<sup>2)</sup>、  
朝川 勝明<sup>2)</sup>、細井 牧<sup>2)</sup>、小原 竜軌<sup>2)</sup>、寺田 正樹<sup>2)</sup>

1)済生会新潟病院 看護部、2)済生会新潟病院 呼吸器内科

**OP2-5** 当院での HFNC 運用について  
—4年間の運用について振り返る—

○星 力央<sup>1)</sup>、中野 恵介<sup>1)</sup>、今井 大智<sup>1)</sup>、梶原 大季<sup>3)</sup>、馬場 順子<sup>3)</sup>、小山 建一<sup>3)</sup>、  
三浦 理<sup>3)</sup>、田中 洋史<sup>3)</sup>、中川 悟<sup>4)</sup>、瀬崎 学<sup>2)</sup>

1)新潟県立がんセンター新潟病院 臨床工学科、2)新潟県立リウマチセンター リハビリテーション科、  
3)新潟県立がんセンター新潟病院 呼吸器内科、4)新潟県立がんセンター新潟病院 消化器外科

**OP2-6** 消化器がん周術期への早期作業療法介入  
—高齢患者認知機能の関わり—

○林 希味子<sup>1)</sup>、相場 有希子<sup>2)</sup>、瀬崎 学<sup>3)</sup>

1)新潟県立がんセンター新潟病院 リハビリテーション科、2)新潟県はまぐみ療育センター、  
3)新潟県立リウマチセンター

**OP3-1** 心臓植え込みデバイスおよび CPAP 同時使用における  
遠隔モニタリング装置の干渉調査

○遠藤 義幸

新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院

**OP3-2** 在宅療養支援における多職種連携 ICT の利用者がとらえた課題

○北條 由美乃<sup>1)</sup>、高橋 宏子<sup>1)</sup>、宮城 芳江<sup>2)</sup>、藤本 圭作<sup>3)</sup>

1) 信州大学 医学部 保健学科 看護学専攻、2) 信州大学医学部附属病院、3) 市立大町総合病院

**OP3-3** 拒否していた HOT 導入を訪問看護の関わりを通して考え直した一例

○小林 詩織<sup>1)</sup>、吉田 久美<sup>1)</sup>、堀川 昌子<sup>1)</sup>、丸谷 温<sup>1)</sup>、坂井 邦彦<sup>1)2)</sup>

1) 新潟臨港病院 在宅医療部、2) 新潟臨港病院 内科

**OP3-4** 入院ILD患者における desaturation level は、  
在宅酸素療法の流量や携帯型酸素濃縮器の導入指標となりうるか？

○酒井 康成<sup>1)</sup>、太田 浩章<sup>1)</sup>、山本 周平<sup>1)</sup>、市山 崇史<sup>2)</sup>、花岡 正幸<sup>2)</sup>、池上 章太<sup>1)</sup>、  
堀内 博志<sup>1)</sup>

1) 信州大学医学部附属病院 リハビリテーション部、

2) 信州大学医学部附属病院 呼吸器・感染症・アレルギー内科

**OP3-5** 在宅酸素療法患者の認知機能低下が日常生活動作低下に及ぼす影響：  
前向き観察研究

○安中 裕紀<sup>1)2)</sup>、能村 友紀<sup>3)</sup>、森山 寛史<sup>4)</sup>、長谷川 雄司<sup>1)</sup>、大平 徹郎<sup>4)</sup>

1) 国立病院機構 西新潟中央病院 リハビリテーション科、

2) 新潟医療福祉大学 医療福祉学研究科 博士後期課程、

3) 新潟医療福祉大学 作業療法学科、

4) 国立病院機構 西新潟中央病院 呼吸器センター



### OP4-1 COVID-19肺炎を呈した高度肥満症例に対する多職種協働によるリハビリテーション経験

- 加藤 諄一<sup>1)</sup>、大嶋 康義<sup>2)</sup>、高橋 敦宣<sup>2)</sup>、穂苅 諭<sup>2)</sup>、永井 明日香<sup>2)</sup>、柴田 怜<sup>2)</sup>、西山 慶<sup>3)</sup>、坂野 周平<sup>1)</sup>、木村 慎二<sup>4)</sup>、上路 拓美<sup>1)</sup>

- 1) 新潟大学医歯学総合病院 診療支援部 リハビリテーション部門、  
2) 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 呼吸器・感染症内科学分野、  
3) 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 救命救急医学分野、  
4) 新潟大学医歯学総合病院 リハビリテーション科

### OP4-2 COVID-19感染後、続発性器質化肺炎を呈した症例の呼吸リハビリテーションの経験

- 高山 尚久<sup>1)</sup>、太田 佳織<sup>1)</sup>、栗林 伴光<sup>1)</sup>、佐藤 彩<sup>1)</sup>、傳刀 恵美<sup>1)</sup>、藤本 圭作<sup>2)3)</sup>、曾根原 圭<sup>3)</sup>

- 1) 市立大町総合病院 リハビリテーション科、2) 市立大町総合病院 呼吸器内科、  
3) 信州大学医学部附属病院 呼吸器内科

### OP4-3 COPD 連携手帳の活用によって退院後の呼吸困難が軽減した COPD 症例

- 寛 美波<sup>1)</sup>、高橋 祐介<sup>1)</sup>、渡邊 祐大<sup>1)</sup>、長濱 秀明<sup>1)</sup>、斉藤 智久<sup>2)</sup>

- 1) 新潟勤労者医療協会 下越病院 リハビリテーション課、  
2) 新潟勤労者医療協会 下越病院 呼吸器内科

### OP4-4 GOLD group B に該当する COPD 患者の呼吸困難マネジメントと身体活動量の特徴

- 小林 千穂<sup>1)</sup>、清水 詩子<sup>2)</sup>、小山 千加代<sup>1)</sup>、井澤 玲奈<sup>1)</sup>、小山 諭<sup>2)</sup>、坂井 邦彦<sup>3)</sup>

- 1) 学校法人 新潟総合学園 新潟医療福祉大学 看護学部、2) 新潟大学大学院 保健学研究科、  
3) 社会医療法人 新潟臨港保健会 新潟臨港病院

### OP4-5 サルコイドーシスに伴う肺線維症患者に対して階段昇降時の呼吸法・動作指導を行った一例

- 斎藤 美樹<sup>1)</sup>、高橋 祐介<sup>1)</sup>、長濱 秀明<sup>1)</sup>、斉藤 智久<sup>2)</sup>

- 1) 新潟勤労者医療協会 下越病院 リハビリテーション課、  
2) 新潟勤労者医療協会 下越病院 呼吸器内科

### OP4-6 摂食機能障害により経口摂取困難として転院してきた2症例について

- 鈴木 和夫<sup>1)</sup>、山岸 由美子<sup>2)</sup>、中條 恵子<sup>2)</sup>

- 1) 新潟県立松代病院 内科、2) 新潟県立松代病院 看護部

### OP5-1 障害者病棟看護師の呼吸アセスメント能力向上への課題

○望月 俊助

医療法人銀門会 甲州リハビリテーション病院 看護部

### OP5-2 人工呼吸ケア シミュレーション研修の取り組み ～実践力育成を目指して～

○片桐 希望<sup>1)</sup>、阿部 貴宏<sup>1)</sup>、高橋 祐介<sup>1)</sup>、明田川 清香<sup>1)</sup>、小林 千穂<sup>2)</sup>、斉藤 智久<sup>1)</sup>、  
小川 智<sup>1)</sup>

1)新潟勤労者医療協会 下越病院、

2)新潟医療福祉大学 看護部 看護学科 高齢者看護学

### OP5-3 コロナ禍で集合型から動画視聴型に変更した呼吸ケア勉強会に関する アンケート調査

○五十嵐 誠<sup>1)</sup>、庭山 雅幸<sup>2)</sup>、中村 可愛<sup>3)</sup>、坂井 邦彦<sup>4)5)</sup>

1)新潟臨港病院 看護部、2)新潟臨港病院 薬剤部、3)新潟臨港病院 リハビリテーション科、

4)新潟臨港病院 内科、5)新潟臨港病院 在宅医療部

### OP5-4 オンラインを活用した多職種向け呼吸リハビリテーション研修会の効果と課題

○高岸 弘美<sup>1)2)</sup>、河西 富彦<sup>2)</sup>、乙黒 恵子<sup>2)</sup>、筒井 俊晴<sup>2)</sup>、川口 諒<sup>2)</sup>、山田 洋二<sup>2)</sup>、  
斉藤 千代子<sup>2)</sup>、田中 友美<sup>2)</sup>、新永 拓也<sup>2)</sup>

1)山梨県立大学 看護学部、2)山梨県呼吸ケア・リハビリテーション研究会

# 企画演題抄録

教育セミナー ①

教育セミナー ②

教育セミナー ③

教育セミナー ④

モーニングセミナー

ランチョンセミナー

## COPD 診療におけるトリプルセラピー

安尾 将法

信州大学医学部保健学科 検査技術科学専攻 生体情報検査学領域

本邦のガイドライン（日本呼吸器学会 COPD 診断と治療のためのガイドライン第5版）によると、安定期の慢性閉塞性肺疾患（COPD）の治療の基本は吸入治療であり、また気管支拡張薬がその治療の主体とされる。近年、1種類の吸入器により2種類の気管支拡張薬（長時間作用性抗コリン薬（LAMA）、長時間作用性 $\beta$ 2刺激薬（LABA））と吸入ステロイド（ICS）の3剤が配合された吸入薬による治療（以下、トリプルセラピー）が可能となり、その有用性を示す多くのエビデンスが報告されてきている。上記ガイドラインではICSは「喘息病態合併の場合」に使用とされる一方、近年のトリプルセラピーの大規模臨床試験ではICSを含んだトリプルセラピーの有用性が報告されており、恐らくこの部分を加味した新たなガイドラインが本講演時には出版されていると思われる。

トリプルセラピーが有用であったという結果については、臨床試験に参加した患者背景がICS配合薬有利に働いたという考察がある一方、それに反するような結果、即ちICS配合薬有利と考えられる条件を除いた集団や、COPDの吸入治療にICSの使用が少ない日本人集団においてもトリプルセラピーが有用であったとする結果も複数報告されている。

本講演ではCOPDに対するトリプルセラピーの臨床試験の結果から、COPD治療においてICSの恩恵を受けると考えられる患者像とICSの恩恵を受けないと考えられる患者像はどのようなものかについて、可能であれば新たな本邦のガイドラインの安定期COPD治療の方針を元に考察したい。

## 【略歴】

## 学 歴

1997年3月 信州大学 医学部医学科 卒業  
2005年3月 信州大学大学院 医学研究科 修了

## 学 位

2005年3月 医学博士（信州大学）

## 職歴・研究歴

1997年5月1日 信州大学医学部付属病院 医員（研修医）  
1998年10月1日 長野赤十字病院 内科医師  
1999年10月1日 小諸厚生総合病院 内科医師  
2001年4月1日 伊那市営 伊那中央総合病院 呼吸器科医師  
2001年10月1日 信州大学医学部付属病院 医員  
2005年1月1日 信州大学附属病院 助教  
2008年8月22日 研究留学（米国ヴァージニア州立大学 Victoria W. Johnson Center for Obstructive Pulmonary Disease Research, Norbert Voelkel 教授）（2010.3.31まで）  
2010年4月1日 信州大学附属病院 内視鏡センター 助教  
2013年4月1日 信州大学附属病院 呼吸器・感染症・アレルギー内科 講師  
2021年4月1日 信州大学医学部保健学科検査技術科学専攻 生体情報検査学領域 教授（現職）

## 所属学会名・専門医等

日本内科学会：認定内科医・認定内科専門医  
日本呼吸器学会：呼吸器内科専門医・指導医  
日本呼吸器内視鏡学会：呼吸器内視鏡専門医・呼吸器内視鏡指導医  
日本感染症学会、日本アレルギー学会、日本喘息学会、日本医史学会、  
アメリカ胸部疾患学会（ATS）member

# 一般演題抄録

一般演題1 [ 呼吸リハビリテーション① ]	OP1-1～OP1-5
一般演題2 [ チーム医療・多職種連携 ]	OP2-1～OP2-6
一般演題3 [ 呼吸管理・在宅医療 ]	OP3-1～OP3-5
一般演題4 [ 呼吸リハビリテーション② ]	OP4-1～OP4-6
一般演題5 [ 教育・指導 ]	OP5-1～OP5-4

## OP1-1

### 外来間質性肺疾患患者に対する 呼吸リハビリとしての 6分間歩行試験の有用性について

- 長谷川 雄司<sup>1)</sup>、佐藤 源<sup>1)</sup>、倉重 理絵<sup>2)</sup>、  
木村 夕香<sup>2)</sup>、森山 寛史<sup>2)</sup>、大平 徹郎<sup>2)</sup>  
1) 国立病院機構 西新潟中央病院 リハビリテーション科  
2) 国立病院機構 西新潟中央病院 呼吸器センター内科

【はじめに】 外来間質性肺疾患患者に対し、6分間歩行試験(6MWT)を呼吸リハビリテーション(呼吸リハビリ)の一環として活用する取り組みを検討した。

【対象】 2021年5月から11月に外来診療にて当院呼吸器内科からリハビリテーション科に6MWTの依頼があったIP患者およびIP疑い患者21例。

【方法】 対象症例の診療記録より、外来呼吸リハビリにて実施した6MWTから得られたデータや情報を、後方視的に調査し検討した。

【結果】 対象者平均年齢 $72.4 \pm 8.5$ 歳。男性11例( $69.5 \pm 9.4$ 歳)、女性10例( $75.7 \pm 6.4$ 歳)。特発性肺線維症(IPF)15例(重症度Ⅰ:10例、Ⅱ:1例、Ⅲ:3例、Ⅳ:1例)、上葉優位型肺線維症2例、IP疑い3例、その他1例。6分間歩行距離: $412.5 \pm 98.8$ m、 $SpO_2$ (最低値): $89.7 \pm 6.4\%$ 、心拍数(最大値): $126.1 \pm 14.9$ 回/分、修正Borgスケール: $4.19 \pm 2.0$ 。6MWT後に抗線維化薬導入が9例、在宅酸素療法導入が2例、酸素流量の変更が1例。6MWT後の症例へのフィードバックでは、「酸素の状態が知れて良かった」「どのくらいの運動なら大丈夫かが知れて良かった」「肺の病気と知って過保護になっていた」など病態把握への関心が伺えた。

【考察】 間質性肺疾患患者に対する治療立案の比較的早期の段階から、6MWTを呼吸リハビリの観点から実施することで、労作時の問題点抽出や現状把握の一助に有用であると考えられる。

## OP1-2

### 不安と呼吸困難が強い 終末期肺がん患者に対する 呼吸リハビリテーションの経験

- 葦澤 紀文<sup>1)</sup>、岩崎 円<sup>1)</sup>、大坪 亜矢<sup>2)</sup>、高橋 敦宣<sup>2)</sup>、  
穂苺 諭<sup>2)</sup>、永井 明日香<sup>2)</sup>、大嶋 康義<sup>2)</sup>、  
上路 拓美<sup>1)</sup>、木村 慎二<sup>3)</sup>  
1) 新潟大学医歯学総合病院 診療支援部 リハビリテーション部門  
2) 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 呼吸器・感染症内科学分野  
3) 新潟大学医歯学総合病院 リハビリテーション科

【はじめに】 進行期の肺がんは病勢の変化に合わせて呼吸状態・症状の評価をし、ADL維持と並行して症状の緩和とQOLの維持や改善を目標にリハビリテーション(リハビリ)を実施していく必要がある。今回、終末期肺がん患者に対し呼吸リハビリを実施する機会を得たので報告する。

【症例】 症例は69歳女性。X年Y月に全身の疼痛にて受診し左非小細胞肺癌、転移性骨腫瘍の診断に至り、通院での放射線治療や入院での化学療法が施行された。X+1年Y+10月に左脇腹痛と呼吸苦の増悪のため受診し胸腔ドレーン留置されたが、入院中の離床が進まずリハビリが依頼された。初診時では左脇腹痛と不安が強く、呼吸様式は浅い呼吸をしていた。トイレ伝い歩きが可能だが、呼吸困難にて臥床していることが多かった。評価とともに、呼吸法、パニックコントロールを指導。訓練前に鎮痛剤を内服し疼痛コントロールをして運動療法を実施、ADLの低下予防に努めた。呼吸困難は軽減し、歩行状態も改善傾向にあったが、病勢の悪化がありX+1年Y+11月に永眠された。

【考察】 呼吸困難は主観的な症状であり、その量や質を多面的に評価することで、その患者にあった呼吸法やパニックコントロールの指導ができた。呼吸困難を軽減することで、不安も軽減し活動機会は増えた。理学療法士として、病勢が悪化する中でのQOL維持や改善についての関わりは不十分であり今後の課題となった。



第7回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会  
甲信越支部 学術集会  
プログラム・抄録集

---

会 長：菊地 利明

事 務 局：新潟大学大学院 医歯学総合研究科 呼吸器・感染症内科学分野  
〒951-8510 新潟県新潟市中央区旭町通1番町757番地  
TEL：025-368-9325 FAX：025-368-9326

運営事務局：株式会社シンセンメディカルコミュニケーションズ  
〒950-0983 新潟県新潟市中央区神道寺1丁目6番14号  
TEL：025-278-7232 FAX：025-278-7285  
E-mail：kokyucarereha-kse@shinsen-mc.co.jp

出 版：株式会社セカンド  
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F  
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025  
<https://secand.jp/>